

笠間市高齢者福祉 総合調査

【速報版】

I 調査実施の概要

1 目的

笠間市における、平成27年度から平成29年度までを計画期間とする高齢者福祉計画・介護保険事業計画を策定するに当たり、高齢者等の生活状況及び市の高齢者福祉サービスや介護サービスに対する意見・意向等を把握することを目的とする。

2 調査対象

調査は、下記の対象者に、共通の調査票（日常生活圏域ニーズ調査項目を含む）で実施した。

調査対象	規模
要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者	無作為抽出 (1,000人)
要支援・要介護認定を受けている65歳以上の高齢者	認定者より無作為抽出 (1,000人)

3 調査の方法と回収状況

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査期間：平成26年8月7日（木）～平成26年8月22日（金）

<回収状況>

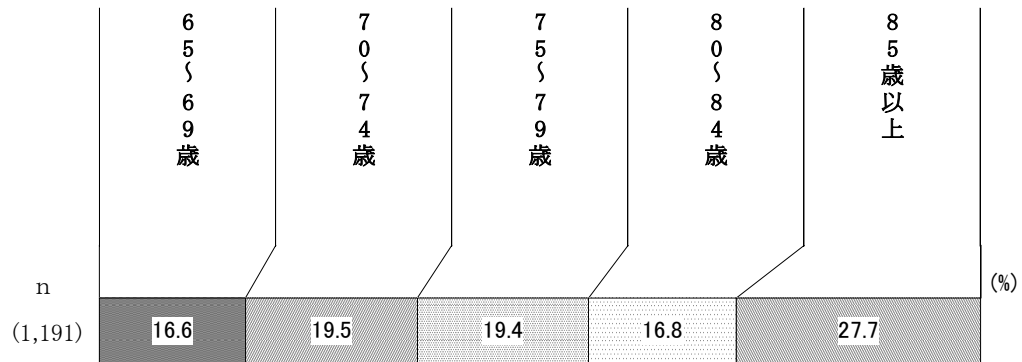
調査対象者	調査対象数（人）	有効回収数（人）	有効回収率（%）
要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者	1,000	648	64.8
要支援・要介護認定を受けている65歳以上の高齢者	1,000	543	54.3
合計	2,000	1,191	59.6

4 速報版の見方

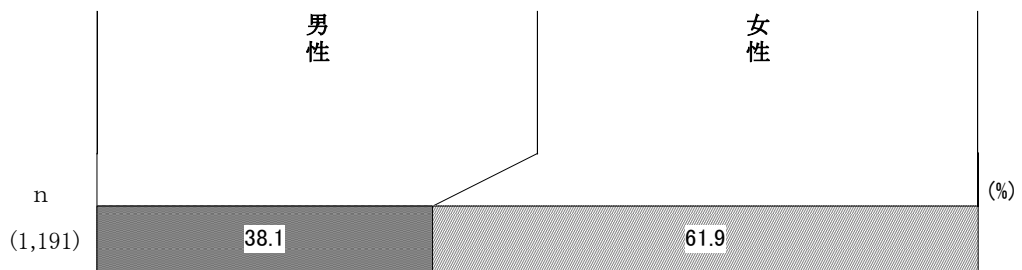
- ① 集計は、小数点以下第2位を四捨五入している。従って、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- ② 基数となるべき実数は、（n：number of casesの略）として表示している。
- ③ 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。従って、複数回答の設問は全ての比率を合計すると100.0%を超えることがある。

II 回答者の属性

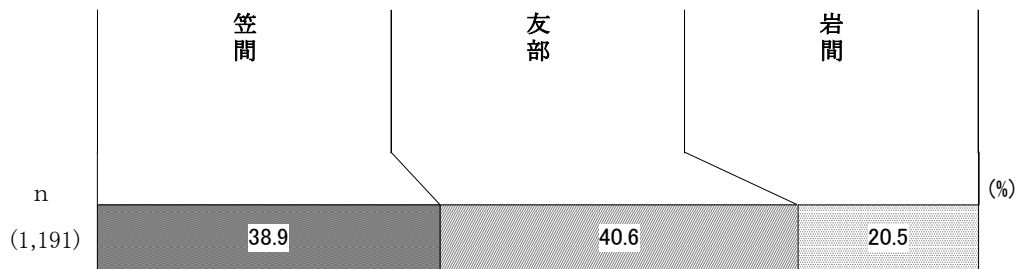
1 年齢



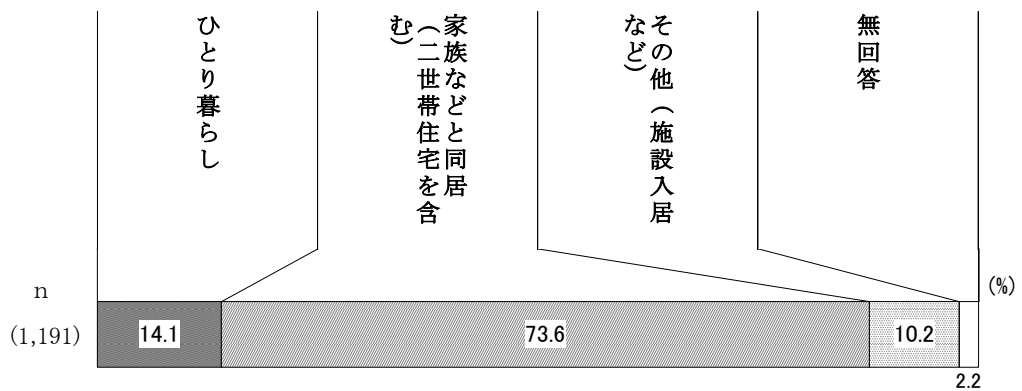
2 性別



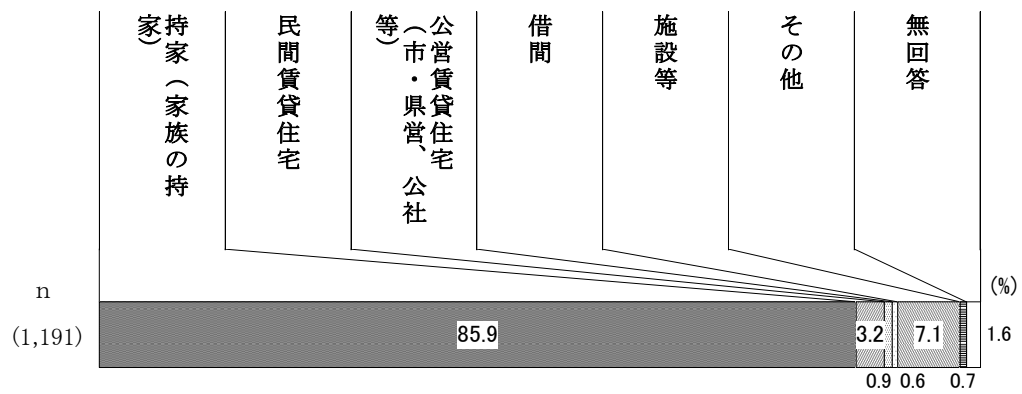
3 居住地区



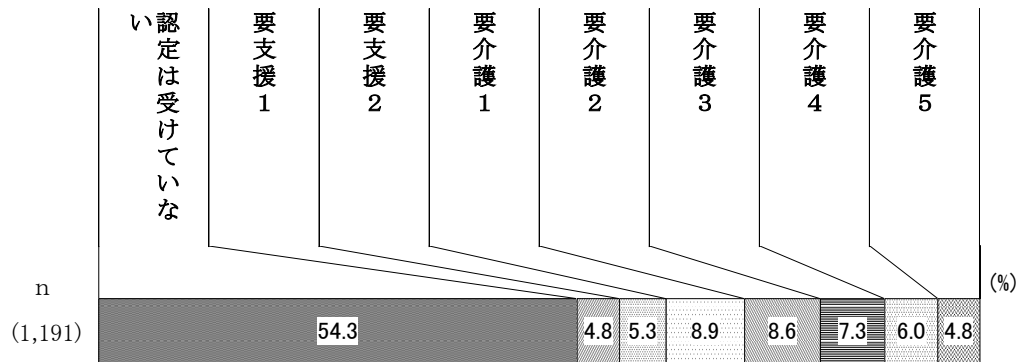
4 家族構成



5 住まいの種類



6 要支援・要介護認定



II 身体状況等

【「認定を受けていない方」または「要支援1～要介護2までの方」】

1 機能評価

1 基本チェックリスト項目による判定

ここでは、基本チェックリストによる二次予防事業対象者の判定基準に従い、各機能のリスク該当者（判定基準に該当した方）の割合を算出している。

各機能の判定基準は、次のとおりである。（ア）～（エ）のリスクが1つでもある場合、「二次予防事業対象者」となる。

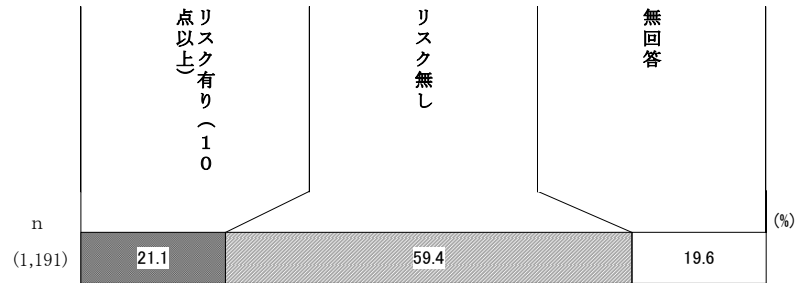
項目		配点		
1	バスや電車で、一人で外出していますか	0. はい	1. いいえ	(ア) 虚弱 20項目のうち、 点数が10点以上の方
2	日用品の買い物をしていますか	0. はい	1. いいえ	
3	預貯金の出し入れをしていますか	0. はい	1. いいえ	
4	友人の家を訪ねていますか	0. はい	1. いいえ	
5	家族や友人の相談にのっていますか	0. はい	1. いいえ	
6	階段を、手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0. はい	1. いいえ	
7	椅子に座った状態から、何もつかまらずに立ちあがっていますか	0. はい	1. いいえ	
8	15分くらい続けて歩いていますか	0. はい	1. いいえ	
9	この1年間に転んだことがありますか	1. はい	0. いいえ	
10	転倒に対する不安は大きいですか	1. はい	0. いいえ	
11	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい	0. いいえ	(イ) 運動器の機能 低下 5項目のうち、 点数が3点以上の方
12	身長 _____cm , 体重 _____kg	※BMI < 18.5 なら 「1.」		
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	0. いいえ	(ウ) 低栄養 2項目のうち、 点数が2点以上の方
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい	0. いいえ	
15	口の渇きが気になりますか	1. はい	0. いいえ	(エ) 口腔機能の 低下 3項目のうち、 点数が2点以上の方
16	週に1回以上は外出していますか	0. はい	1. いいえ	
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. はい	0. いいえ	閉じこもり 1項目のうち、 点数が1点以上の方
18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると 言われますか	1. はい	0. いいえ	
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0. はい	1. いいえ	認知機能の 低下 3項目のうち、 点数が1点以上の方
20	今日が何月何日かわからないときがありますか	1. はい	0. いいえ	
21	(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	1. はい	0. いいえ	うつ傾向 5項目のうち、 点数が2点以上の方
22	(ここ2週間) これまで楽しんでやれたことが楽しめなくなった	1. はい	0. いいえ	
23	(ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる	1. はい	0. いいえ	
24	(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だとは思えない	1. はい	0. いいえ	
25	(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	1. はい	0. いいえ	

※調査の選択肢において、「できるけどしていない」、「できない」と回答したものを「1. いいえ」とした。

※本速報では、「認知機能の低下」は掲載せず、「認知機能障害程度評価」を掲載している。

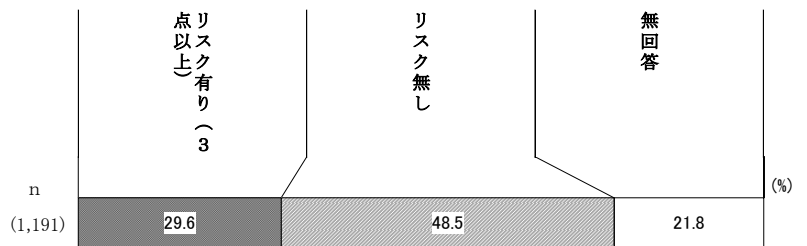
1-1 虚弱

全体では、「リスク有り（10点以上）」は21.1%で、「リスク無し」は59.4%となっている。



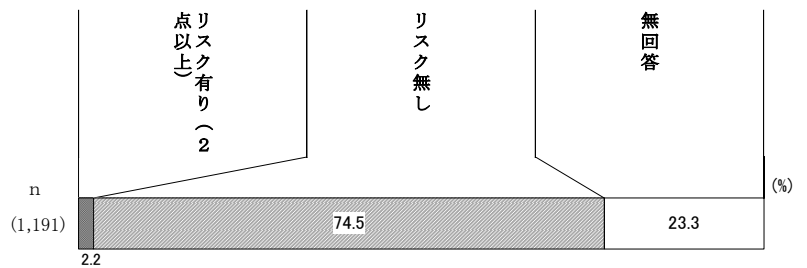
1-2 運動器の機能低下

全体では、「リスク有り（3点以上）」は29.5%で、「リスク無し」は48.5%となっている。



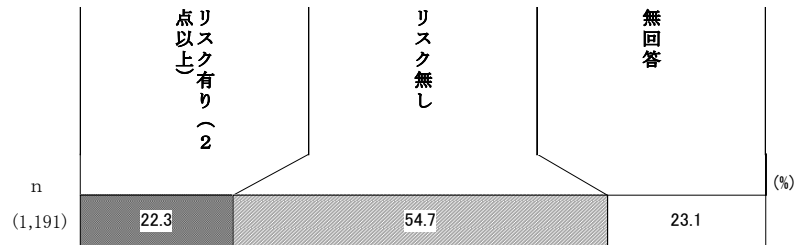
1-3 低栄養

全体では、「リスク有り（2点以上）」は2.2%で、「リスク無し」は74.5%となっている。



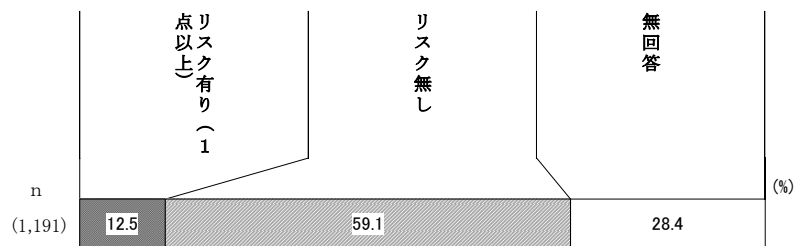
1-4 口腔機能の低下

全体では、「リスク有り（2点以上）」は 22.3%で、「リスク無し」は 54.7%となっている。



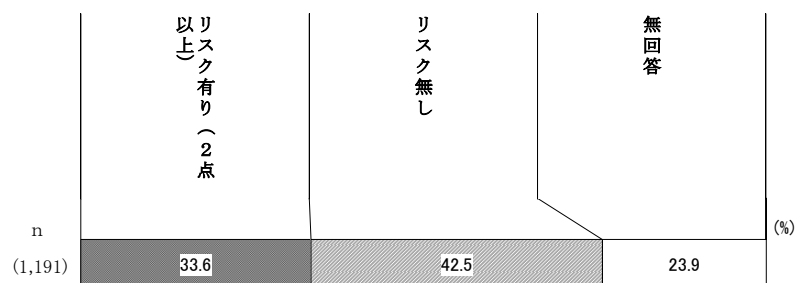
1-5 閉じこもり

全体では、「リスク有り（1点以上）」は 12.5%で、「リスク無し」は 59.1%となっている。



1-6 うつ傾向

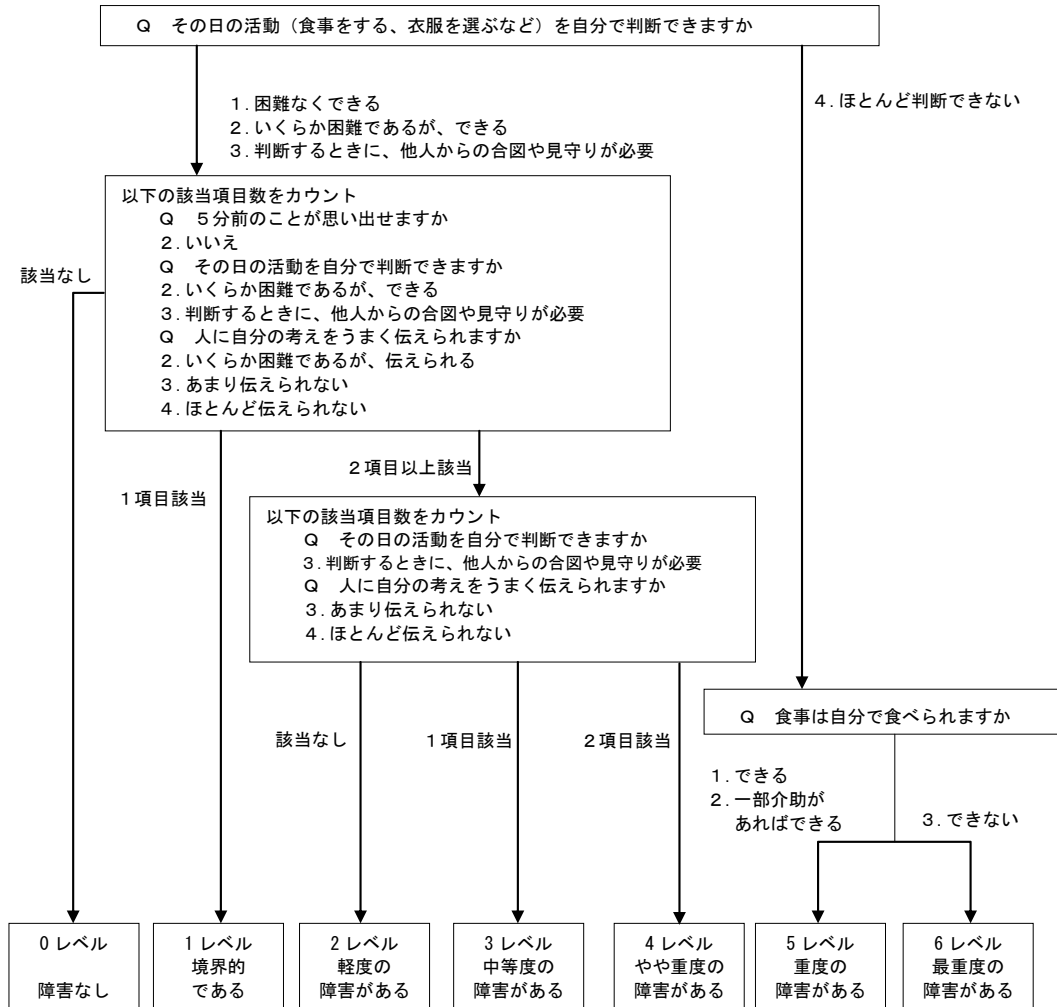
全体では、「リスク有り（2点以上）」は 33.6%で、「リスク無し」は 42.5%となっている。



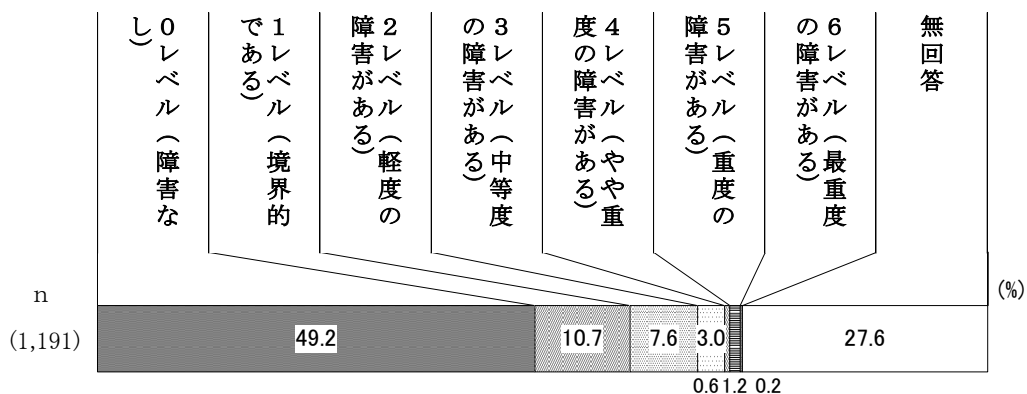
2 認知症

1 認知機能障害程度評価

認知機能の障害程度の指標として有用とされる認知機能障害程度（C P S；Cognitive Performance Scale）による評価方法は、次のとおりである。



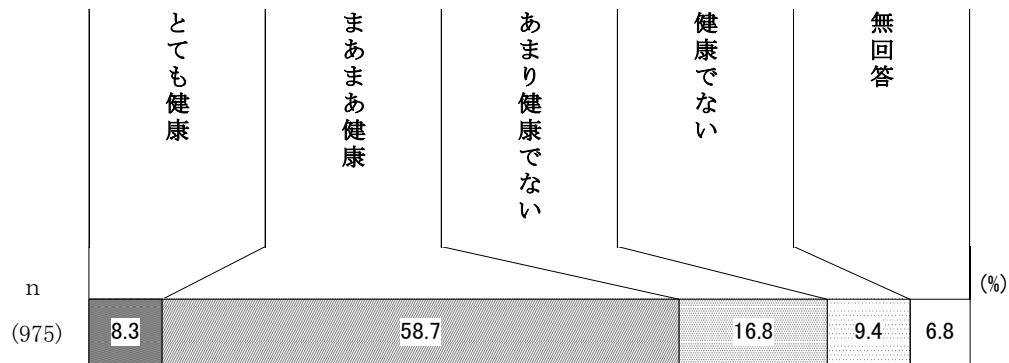
全体では、認知機能障害程度評価の「0レベル（障害なし）」が49.2%、「1レベル（境界的である）」が10.7%、「2レベル（軽度の障害がある）」が7.6%となっている。



3 健康

1 健康状態

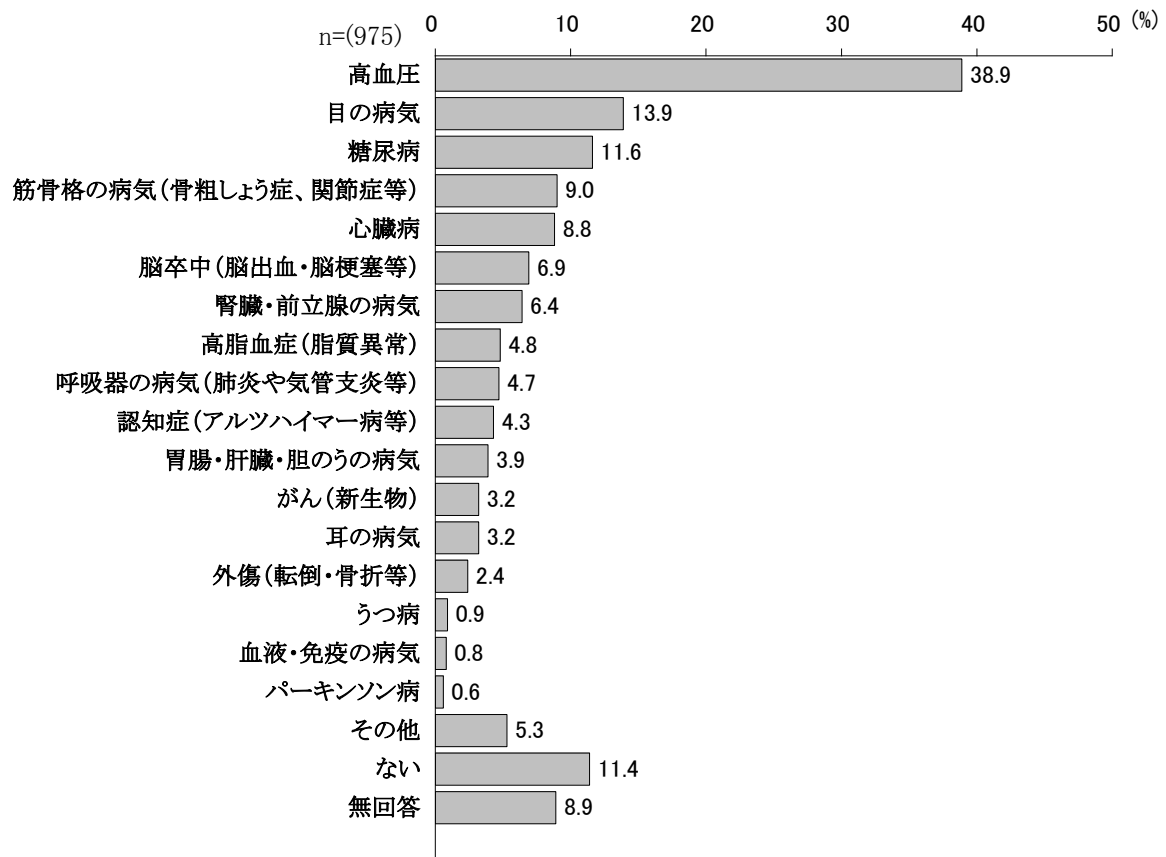
健康状態について、「まあまあ健康」が58.7%で最も多く、「とても健康」(8.3%)を合わせた《健康である》は67.0%となる。一方、「あまり健康でない」(16.8%)と「健康でない」(9.4%)を合わせた《健康でない》は26.2%となっている。



2 現在治療中、または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気についてたずねたところ、具体的な病気としては、「高血圧」が38.9%で最も多く、次いで「目の病気」が13.9%、「糖尿病」が11.6%、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が9.0%、「心臓病」が8.8%と続いている。

一方、「ない」は11.4%となっている。



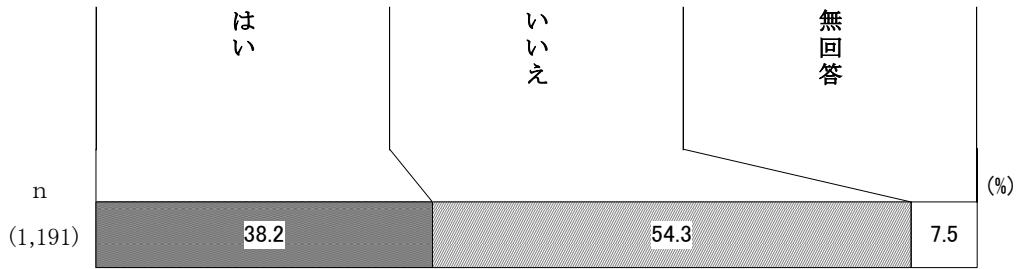
Ⅲ 地域包括支援センターや介護保険制度等

【全員】

1 地域包括支援センター

1 地域包括支援センターの認知度

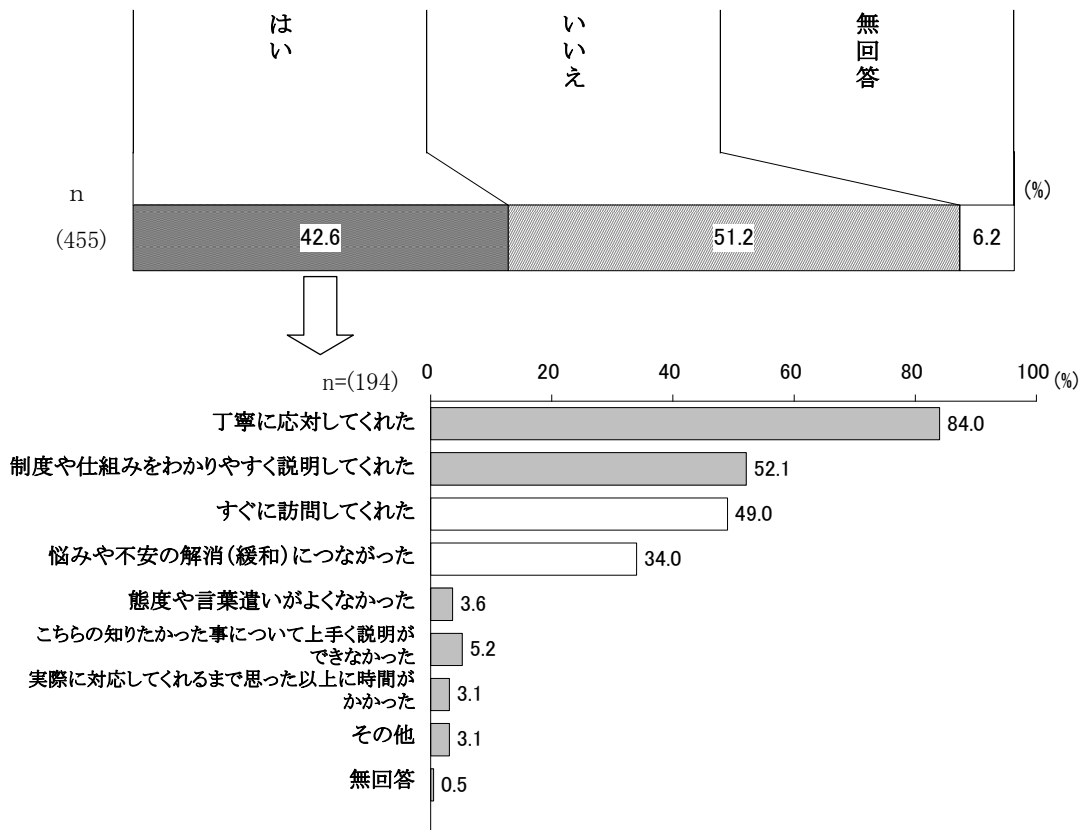
地域包括支援センターの認知についてたずねたところ、「はい」が38.2%で、「いいえ」が54.3%となっている。



2 地域包括支援センターの利用度，及び利用した感想

地域包括支援センターの利用についてたずねたところ、「はい」が42.6%で、「いいえ」が51.2%となっている。

また、利用した人に、利用した感想をたずねたところ、「丁寧に應對してくれた」が84.0%で最も多く、次いで「制度や仕組みをわかりやすく説明してくれた」が52.1%、「すぐに訪問してくれた」が49.0%と続いている。

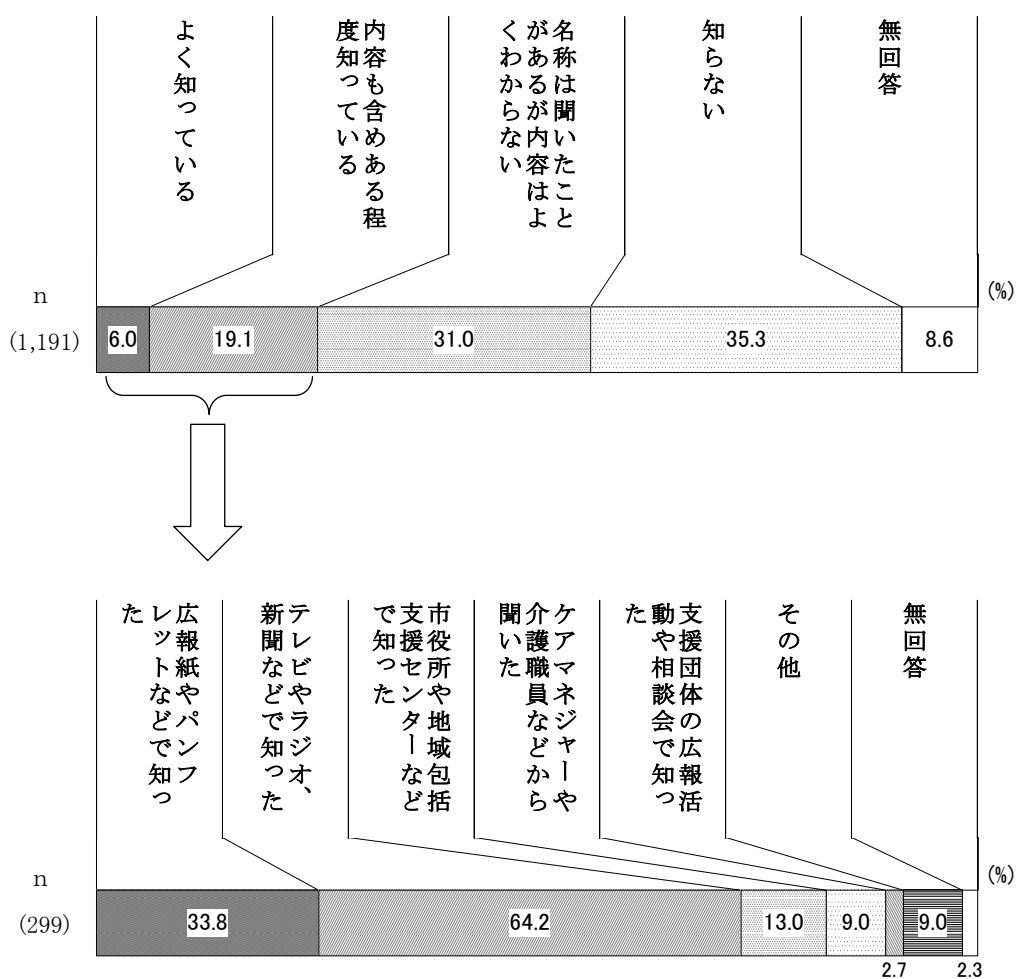


2 成年後見制度

1 成年後見制度の認知度と認知媒体

成年後見制度の内容認知についてたずねたところ、「知らない」が35.3で最も高く、次いで、「名称は聞いたことがあるが内容はよくわからない」が31.0%となっている。「良く知っている」と「内容も含めある程度知っている」を合わせた《内容も知っている》は25.1%となっている。

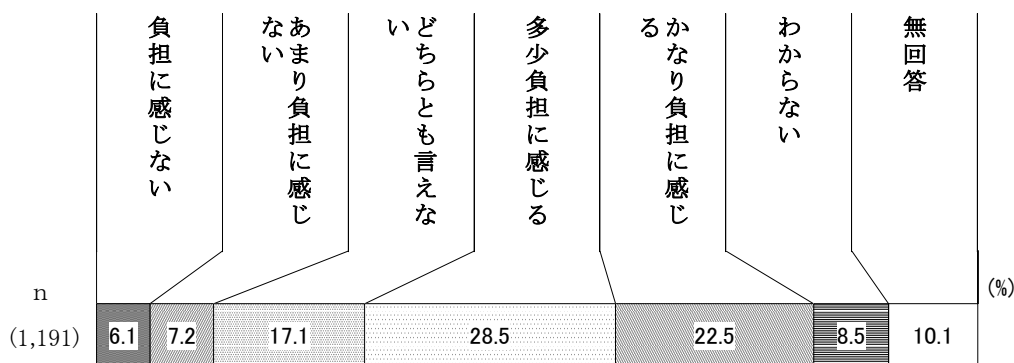
また、《内容も知っている》人に、どのようにして知ったかをたずねたところ、「テレビやラジオ、新聞などで知った」が64.2%で最も多く、次いで「広報紙やパンフレットなどで知った」が33.8%、「市役所や地域包括センターなどで知った」が13.0%と続いている。



3 介護保険料

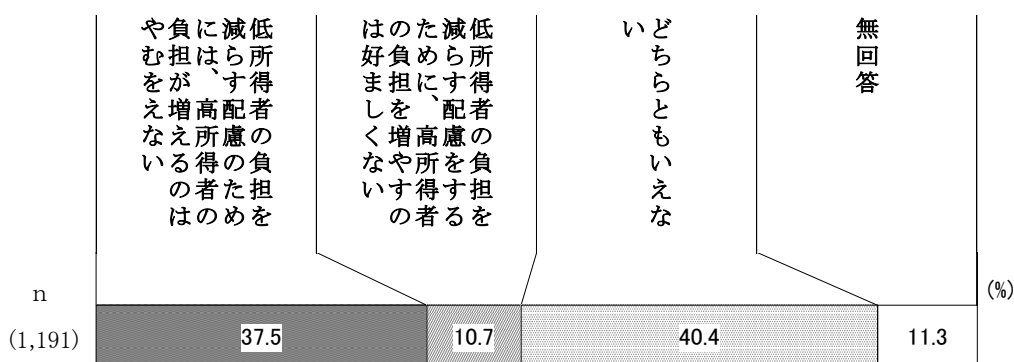
1 介護保険料の支払いについての感じ方

介護保険料の支払いについての感じ方では、「多少負担を感じる」が28.5%で最も多く、これに「かなり負担を感じる」(22.5%)を合わせた《負担を感じる》は51.0%となる。一方、「負担に感じない」(6.1%)と「あまり負担に感じない」(7.2%)を合わせた《負担に感じない》は13.3%となっている。



2 市の介護保険料段階のあり方についての考え

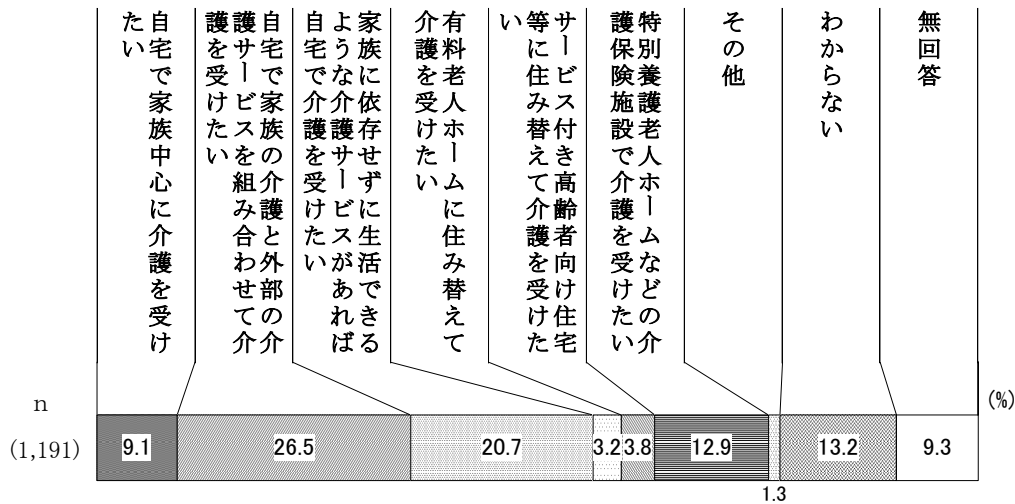
市の介護保険料段階のあり方についての考えは、「低所得者の負担を減らす配慮をするために、高所得者の負担が増えるのはやむをえない」が37.5%で、「低所得者の負担を減らす配慮をするために、高所得者の負担を増やすのは好ましくない」が10.7%となっている。また、「どちらともいえない」は40.4%となっている。



3 今後の暮らしや介護・医療

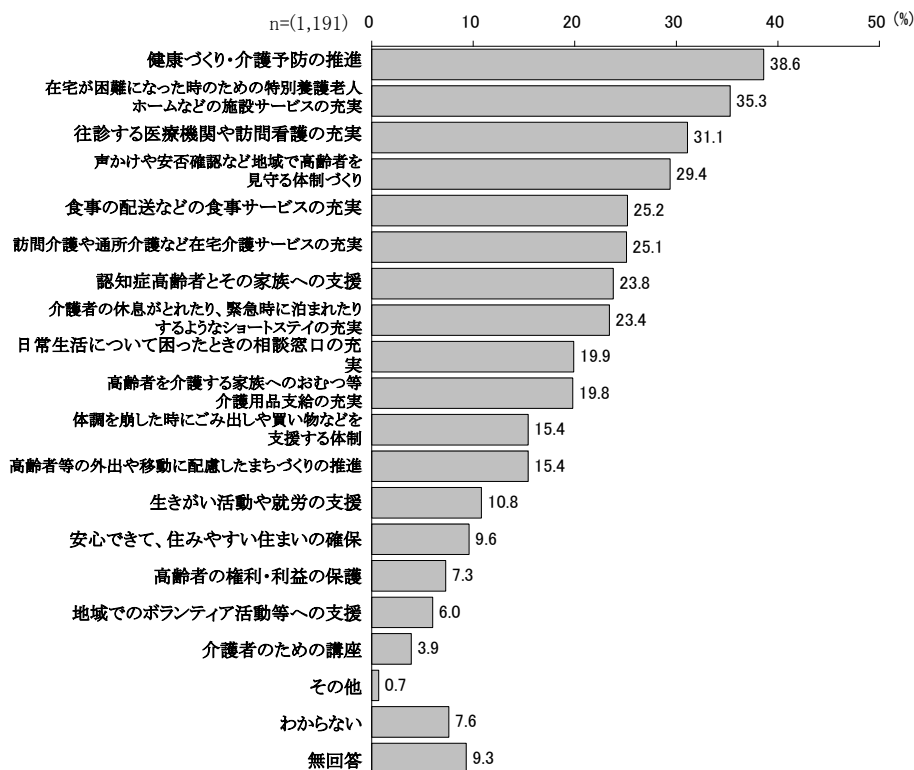
1 今後どのような形で介護を受けたいか

今後望む介護の受け方では、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が26.5%で最も多く、「家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい」が20.7%、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設で介護を受けたい」が12.9%、「自宅で家族中心に介護を受けたい」が9.1%となっている。



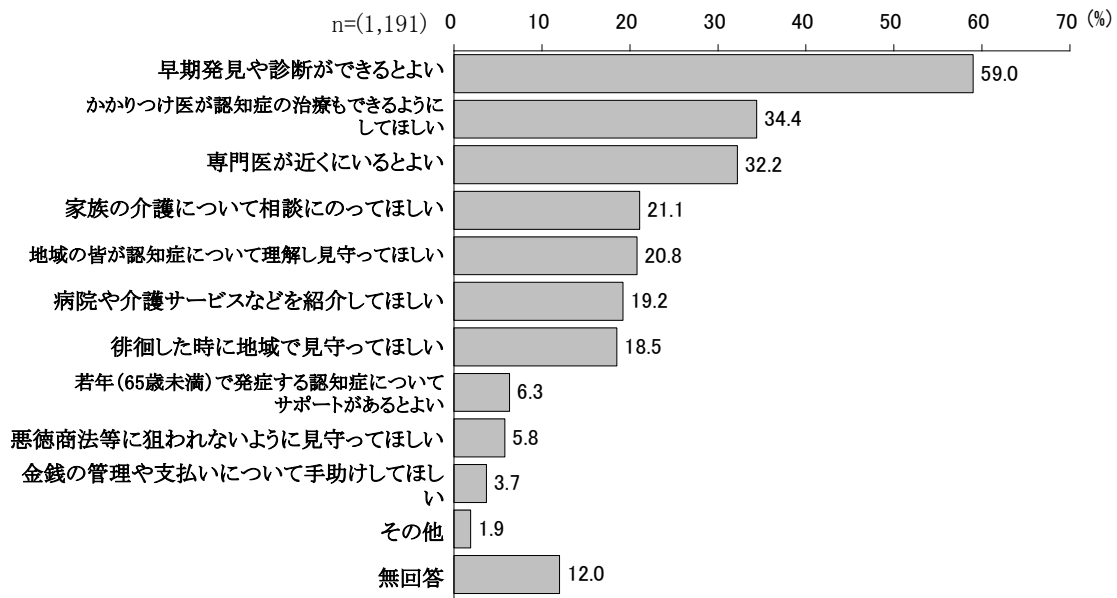
2 住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために特に力を入れていくべきもの

住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするために特に力を入れていくべきものでは、「健康づくり・介護予防の推進」が38.6%で最も多く、次いで「在宅が困難になった時のための特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が35.3%、「往診する医療機関や訪問看護の充実」が31.1%、「声かけや安否確認など地域で高齢者を見守る体制づくり」が29.4%、「食事の配送などの食事サービスの充実」が25.2%となっている。



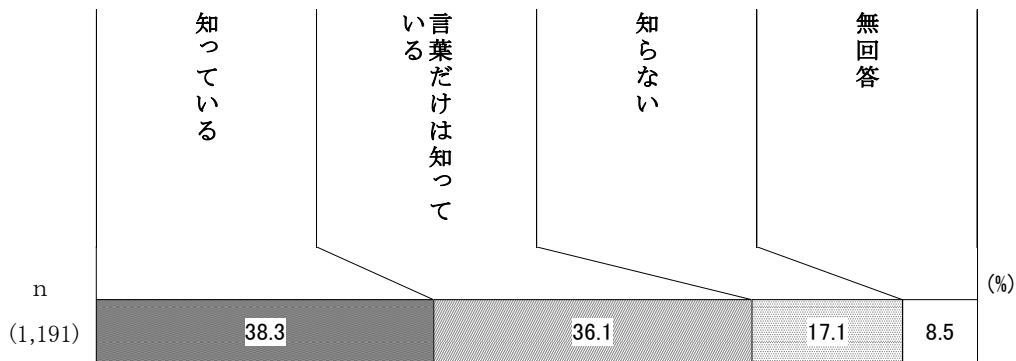
3 認知症対策をすすめていくうえで、重点を置くべきこと

認知症対策をすすめていくうえで、重点を置くべきことでは、「早期発見や診断ができる」とよい」が59.0%で最も多く、次いで「かかりつけ医が認知症の治療もできるようにしてほしい」が34.4%、「専門医が近くにいとよい」が32.2%、「家族の介護について相談にのってほしい」が21.1%、「地域の皆が認知症について理解し見守ってほしい」が20.8%となっている。



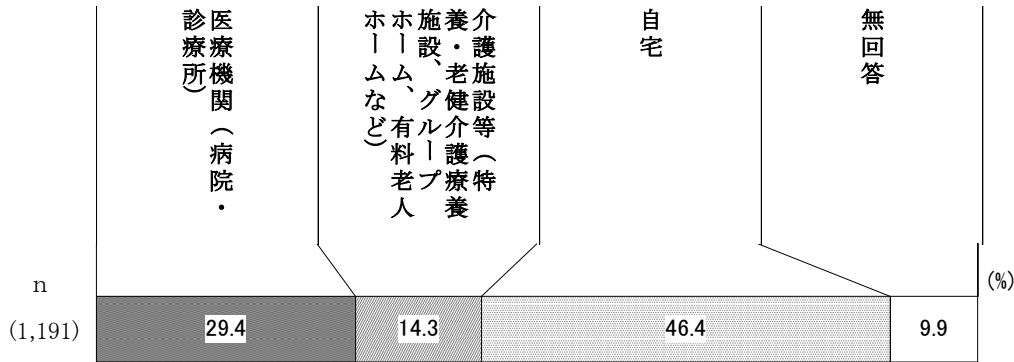
4 在宅医療の認知度

在宅医療についての認知は、「知っている」が38.3%で最も多く、次いで「言葉だけは知っている」が36.1%、「知らない」は17.1%となっている。



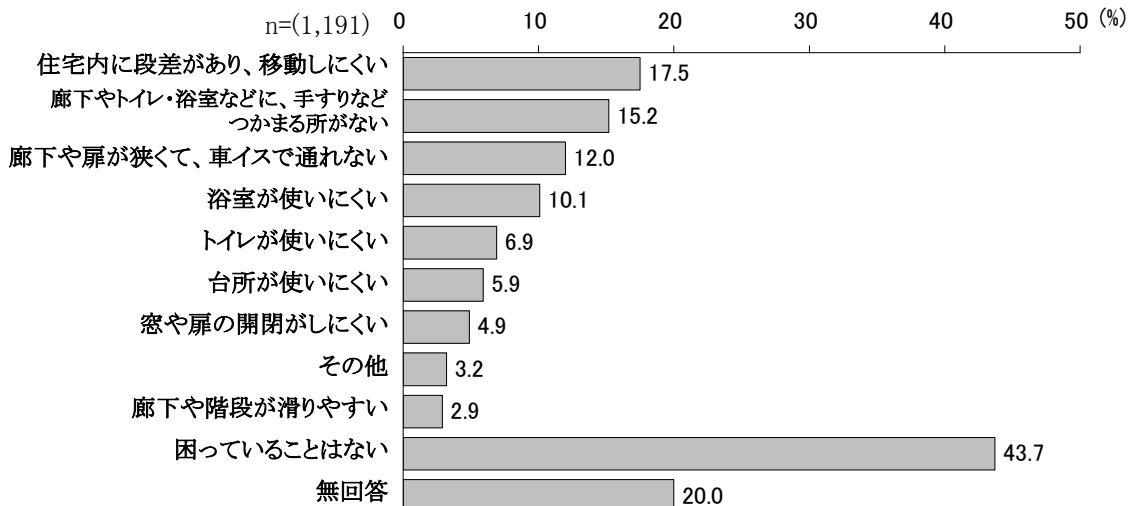
5 最期を迎える場所の希望

最期を迎える場所として希望するのは、「自宅」が 46.4%で最も多く、次いで「医療機関（病院・診療所）」が 29.4%、「介護施設等（特養・老健介護療養施設、グループホーム、有料老人ホームなど）」が 14.3%となっている。



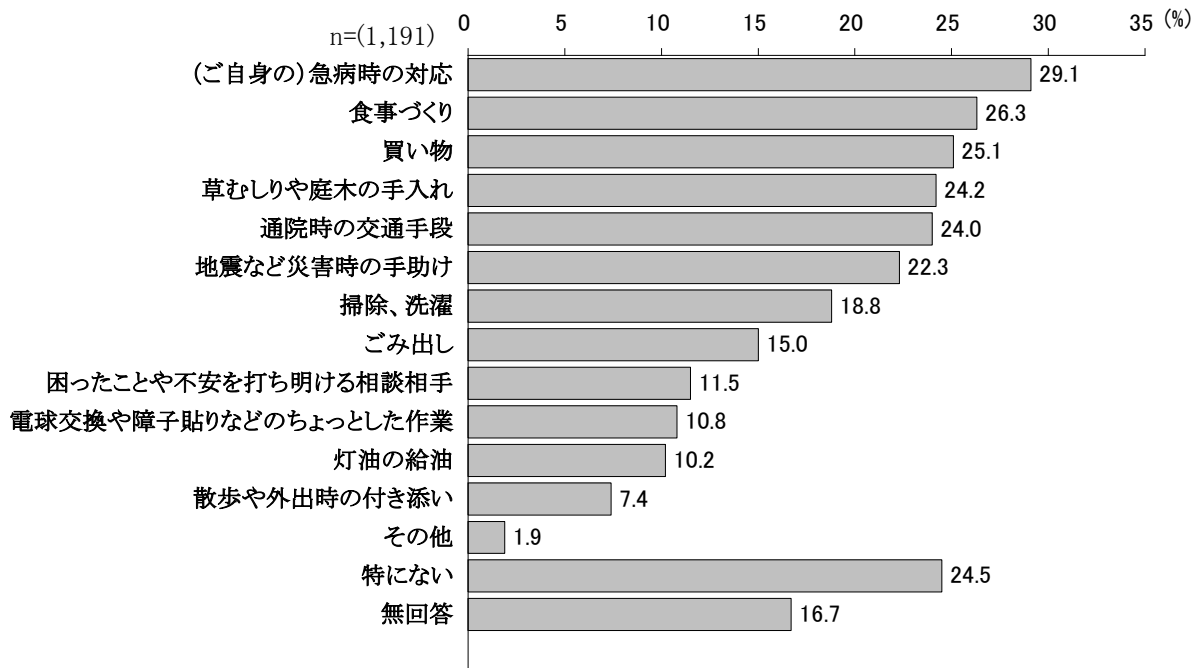
6 住宅で困っていること

住宅で困っていることについてたずねたところ、「住宅内に段差があり、移動しにくい」が 17.5%で最も多く、次いで「廊下やトイレ・浴室などに、手すりなどつかまる所がない」が 15.2%、「廊下や扉が狭くて、車イスで通れない」が 12.0%、「浴室が使いにくい」が 10.1%、「トイレが使いにくい」が 6.9%となっている。一方、「困っていることはない」は 43.7%となっている。



7 在宅で安心して暮らし続けるために、あればよいと思う支援

在宅で安心して暮らし続けるために、あればよいと思う支援については、「(ご自身の)急病時の対応」が29.1%で最も多く、次いで「食事づくり」が26.3%、「買い物」が25.1%、「草むしりや庭木の手入れ」が24.2%、「通院時の交通手段」が24.0%となっている。一方、「特にない」は24.5%となっている。



IV 介護予防・介護サービス

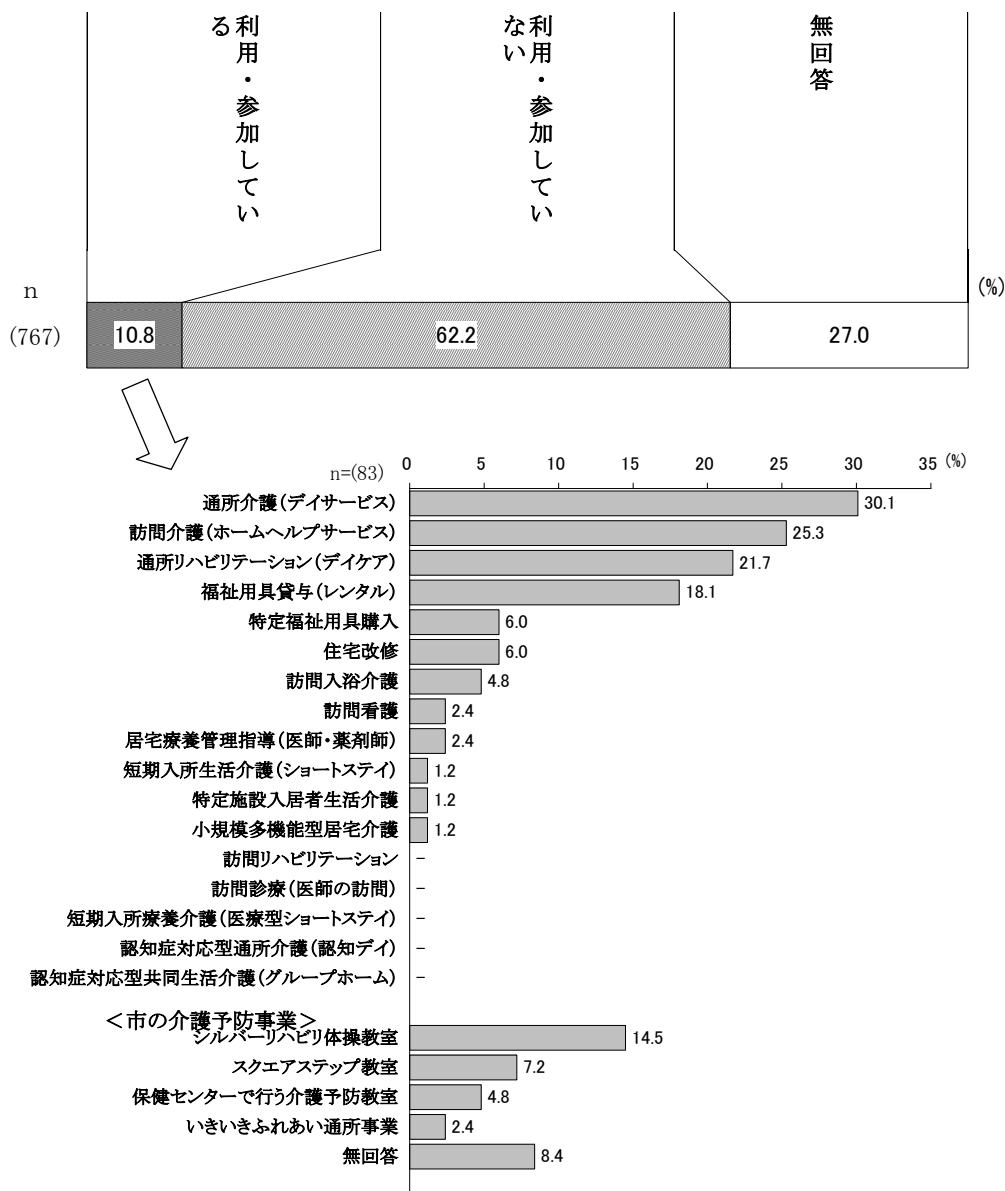
【「認定を受けていない方」または「要支援1～要介護2までの方」】

1 介護予防

1 現在利用している介護予防サービスまたは市の介護予防事業への参加状況

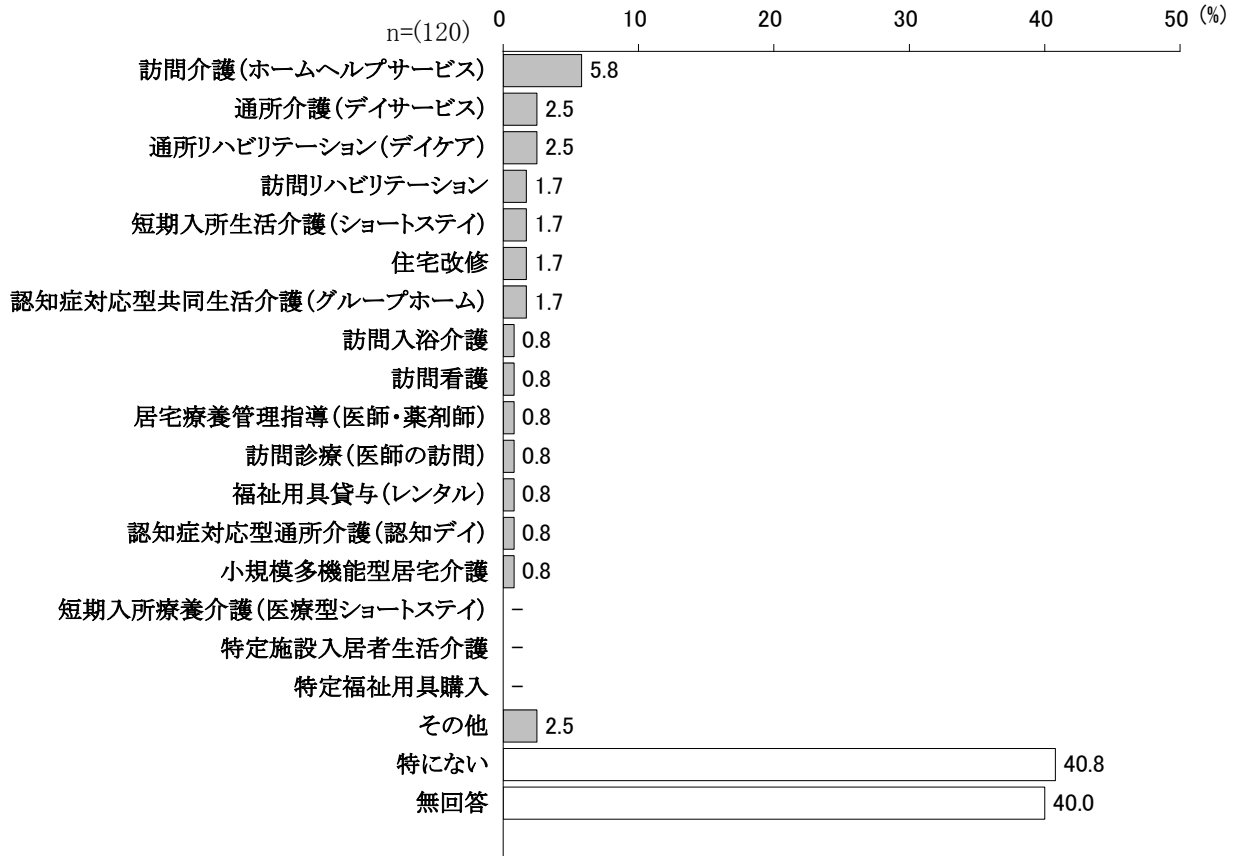
現在利用している介護予防サービスまたは市の介護予防事業への参加状況については、「利用・参加していない」が62.2%で、「利用・参加している」は10.8%となっている。

「利用・参加している」の人に、利用している介護予防サービスと参加している市の介護予防事業についてたずねたところ、利用している介護予防サービスについては、「通所介護（デイサービス）」が30.1%で最も多く、次いで「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が25.3%、「通所リハビリテーション（デイケア）」が21.7%となっている。また、参加している市の介護予防事業については、「シルバーリハビリ体操教室」が14.5%で最も多く、次いで「スクエアステップ教室」が7.2%、「保健センターで行う介護予防教室」が4.8%となっている。



2 利用したいのに利用できない介護予防サービス

現在、利用したいのに利用できない介護予防サービスをたずねたところ、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が5.8%で最も多く、次いで「通所介護（デイサービス）」と「通所リハビリテーション（デイケア）」がともに2.5%となっている。一方、「特にない」は40.8%となっている。

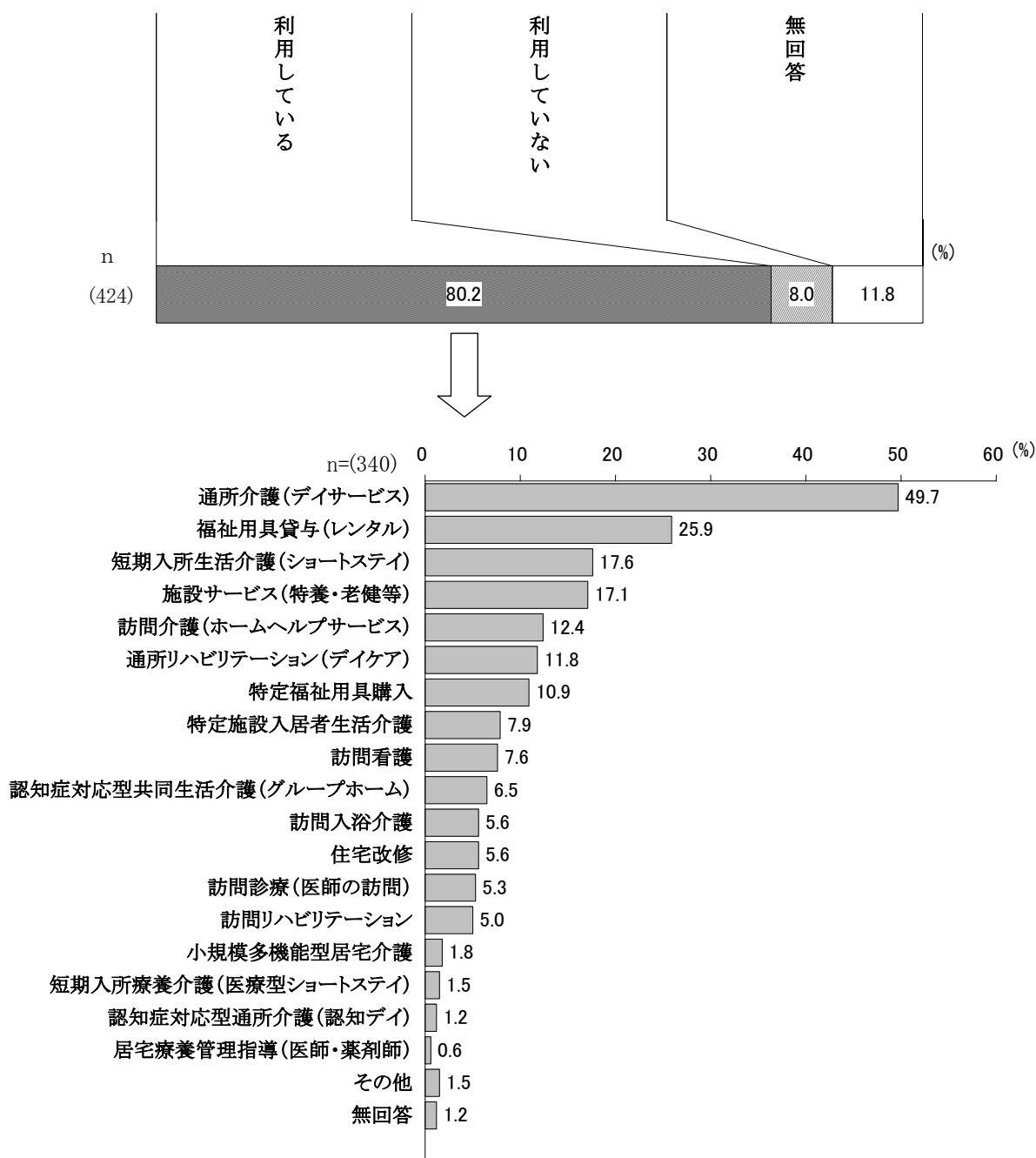


2 介護サービス

1 現在利用している介護

現在の介護サービスの利用について、「利用している」が80.2%で、「利用していない」は8.0%となっている。

「利用している」人に、利用している介護サービスについてたずねたところ、「通所介護（デイサービス）」が49.7%で最も多く、次いで「福祉用具貸与（レンタル）」が25.9%、「短期入所生活介護（ショートステイ）」が17.6%、「施設サービス（特養・老健等）」が17.1%、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が12.4%となっている。



2 利用したいのに利用できない介護サービス

現在、利用したいのに利用できない介護サービスをたずねたところ、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が5.9%で最も多く、次いで「住宅改修」が2.1%、「介護老人保健施設」が1.9%となっている。一方、「特にない」は46.5%となっている。

